



【人生を変えるために来られたイエスキリスト】

聖書本文:ルカの福音書5章1-11節・暗唱聖句:ルカ5章5節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今年もアドベントが始まりました！地上全ての主の教会はクリスマスまでの四週間をアドベントだと呼ばれ、我々に来られた救い主イエス様を覚え待ち望む時期となります。実はアドベントという言葉には過去・現在・未来への深い意味が含まれています。アドベント(Advent)は‘来る’‘到着’を意味するラテン語‘adventus’から由来した言葉です。これは2021年前に、この世に救い主としてイエスキリストがお生まれになり、実際来られた御誕を祝う意味です。そして、一度‘来られた’神の御子救い主イエスキリストが将来再び来られると言う来臨(マタイ24:36)の聖書の御約束通りに、必ず再び来られる主を待ち望む時の意味もアドベントには含まれています。その為、アドベントを再び来られる主を待ち望む時として、待降節(たいこうせつ)、待臨節(たいりんせつ)、降臨節(こうりんせつ)だとも呼ばれています。そして、現在の意味も含まれています。つまり、今も信じる全ての人々に来られ共におられる’という意味もあるのです。2021年前当時だけでなく、今もイエス・キリストを受け入れ信じる全ての人々のうちに来られ、いつも共におられる「インマヌエル(主は我らと共におられる)神」でおられるという意味が含まれているのです。

今年も今日から始まりクリスマスの主日までのアドベント4週間！実際来られた我らの救い主に感謝と賛美を捧げ、今も信じる我らと共におられ主と御言葉と祈りを持って日々交わり歩みつつ、また必ず再び来られる主を共に待ち望みましょう！クリスチャンプレイズ信仰の全家族みなさんの上に天の神の栄光が、キリストの平和と御恵みが豊かに満ち溢れますよう切にお祈り申し上げます！

<1. 最善を尽くしても物事がうまくいかない時があります。>

もう今週から今年最後の12月が始まります。今年もみんなここまで一生懸命に自身に与えられたお仕事や家事、子育て、学生たちは勉強や学校生活などそれぞれみんな頑張ってここまで来られたみなさん、本当にお疲れ様です！

ある意味で人は生きている間、みんな願いや計画通り、成功するように、所期(しょき)の成果を収められるように頑張って努力し、働きます。だれも自身が神庭で努力し、働いた分の良い結果を望まない人が一人もいるのでしょうか。学生たちも、自分が頑張ってテスト勉強した結果を望み、失敗を望む人はいないでしょう。しかし、今まで我らの過ぎ去った過去の人生を振り返って見れば、物事が努力した分の結果を得られた時もあれば、いくら頑張ってもなかなか結果を手に入れられず、辛い失敗の経験(仕事、家庭、人間関係、結婚、勉強、教育など)も何度もされて来られたのではないのでしょうか。

今までもいろんな経験をされたと思いますが、私たちはだれでも失敗する時があります。しかも時々、深刻な失敗もします。神ではない限界のある人間である以上、失敗をするのはある意味当然かも知れません。人生において様々な失敗から避けられることはできないと思います。なので大切なのは決して失敗しないことではなく、失敗に対して我々はどうやって反応していくのかではありませんか。失敗をどうやって扱うのか、管理するかが大切です。失敗のため人生の落伍者(らくごしゃ)になる者もいれば、むしろ失敗したことが良いきっかけとなり、うまく乗り越え、よりよい人生の結果を見出した人もいますのではありませんか。我らの救い主イエスキリストは、一生懸命に頑張っても物事がうまく行かず、挫折と苦しみの中にある我らの人生の問題を解決し、今までの我らの人生を変えて下さるために来られたお方であることを今日の本文の御言葉は教えて下さっています。イエスキリストは今までの我らの人生を逆転させ、本来神に祝福された人生、神による価値ある尊い人生として作り変えることが出来るお方であり、そのためにこの世に来られた神の御子救い主であられます。

今日は一生懸命頑張っても、失敗の中で落ち込んでいた一人の人生を逆転させ、さらに祝福された人生、神に尊く用いられた人生として変えて下さった内容が書かれています。今日我らもう一度今日の御言葉を通して、イエスキリストを通して、我らの人生を変える事が出来る聖書の3原則を共に学び共に実践して行きたいと願います。

<2. 今日の本文内容:夜通ししながら必死に頑張っても失敗を経験したペテロ>

教の本文で、イエス様の弟子となる前に、初めてイエスキリストと出会った時に、ペテロの人生に起こった一つの出来事(ルカ5:1-11)が書かれています。ある日、ペテロと彼の友達は一晩中網を下ろし、魚を捕ろうとしましたが、なぜか一匹も捕るこ

とができませんでした。彼は一生この湖のガリラヤ湖で育てられ、子どものごろから漁師として働いて来たため、だれより、この湖についてよく知っていた人ですし、どうすれば魚を捕ることが出来るのか身に着いて来た魚の専門家でした。しかし、夜通しながら努力しても全然魚を手に入れることが出来なかったことは、ペテロにとて珍しいことでした。魚にかけては、彼は決して初心者ではありません。おそらく最高の投網(とあみ)も、船も所有し、どこに網を打っては、よいかなどすでに熟知(じゅくち)していたプロの一人だったのに間違いありません。

彼と家族の生活はペテロの釣れた魚の量にかかっていたわけですから、当然のごとく一生懸命に働いたに違いないと思います。にもかかわらず、その日は夜通しまでしても一匹も捕れずに終わったのです。まさに「猿も木から落ちる」とはこういうことなんでしょうか。ペテロは翌日かなりの疲労と落胆で落としながら、海辺で網を洗っていました。その時に、神の御子救い主なるイエス様が近づいて来て彼にこう言われました。

「ペテロ、あなたの船を貸してくれないか。あなたの船を使って船の上から人々に話をしたいので、少し漕ぎ出してくれないか。」(：3-「イエスは、そのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。）」

今ペテロの状況は良くないのです。ある意味で最悪の状況です。とても疲れて、落ち込んで、自分の腕にとてもがっかりしたり、腹が立っていたかも知れません。今日の一日はもう無気力で何もしたくないし、だれとも話したくないし、ただ早く網を洗い、家に帰って休みたい気持ちで一杯だったかも知れません。普通の人として、いくらイエス様が頼んでもよく反応するのに一番難しい状況だったのではありませんか。

ところが、まだイエス様はどなたなのかも知らないのに、ペテロは初めて出会ったイエス様という方から頼まれます！何をですか。自分と家族にとって一番大切な船をしばらく数時間貸してほしいとのことでした！それは決して容易い頼みじゃないでしょう。一つしかない、自分の家庭の生計(せいけい)や仕事をするために一番大切な手段であり、ものなのに、知らない人にみなさんなら、そう簡単に出来ることでしょうか。それだけではありません。3節を見ると、貸し出してほしただけではなく、ペテロに漕ぎ出してほしいまで頼まれています！先ほどの話のように、今ペテロは夜通しまで働き帰って来たばかりで、それともまったく成果も、結果もなく体も、心も一番疲れ果てている状況なのに、また知らない人の為に、働いてほしいとのイエスキリストのとて難しい頼みじゃありませんか。みなさんがペテロだったなら、どう反応されたと思われませんか。

なぜかよく分かりませんが、ペテロはイエス様の言われるままにイエス様を船に乗せ、岸辺から少し離れたところにまで漕ぎ出しました！それから、イエス様は岸にいる群衆に向かって話をされました。話が終わると、イエス様はペテロに言われました。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」(4節)ペテロはこう答えました。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましよう。」(5節)

シモンはイエス様の言われた通りに網を下ろしてみると、果たせるかな、網が破れるほどの大漁(たいぎょ)に恵まれたのです。

この出来事から教えられることは、「人生の中最善をつくしてももうまくいかなない時、私たちはどうすべきか」と言うことだと思います。自分なりに最善を尽くしたのに、後少し足りなかったというような仕事の経験をしたことはないでしょうか。学生の場合に今回こそまじめに勉強したのに成績が以前よりもよくなかったとか、夫婦関係を改選させようと必死に努力していたのにちょっともなかなか関係や状況が変わらないなどです。我々の人生に困難はつきものですが、一生懸命やっているのにうまくいかないと、もうあきらめたくなくなってしまいます。そして、こんなふうに感じるようになるのです。

「こんなことを頑張っても何の役に立つだろう。ただ失敗をくり返しになるだけじゃないか。もうあきらめたほうが良いのではないか。」

ペテロに起きた出来事の興味深い点は、2回の同じ魚を捕る作業の比較にあります。ペテロと漁師の友だちはただ自分たちの力でひたすら夜通しまで働いたにもかかわらず、何も捕ることができませんでした。しかし、2回目の時は、そんなに立たない時間のうちに、今までの人生の中でこれまでにないほどおびただしい数の大漁(たいりょう)に恵まれることになりました。みなさん！よく考えて見て下さい。同じ湖で、同じ船に乗り、同じ網を使い、同じ人間が魚をしたのに、いったい何が違っていたのでしょうか。

人生のさまざまな問題の中で救い主なるイエスキリストはみなさんの人生において、家族において、職場での働きにおいて、学校での勉強において、霊的な成長において、そして人間関係においてかならず素晴らしく帰ることが出来るお方であり、そうするのを心から願っておられるお方です。イエスキリストはそのためにこの世に、そして、我らに來られたお方であることを忘れないで下さい。

<3. 我らの人生を逆転させ変えられる聖書の三原則>

①あなたの人生の大切なところにイエスキリストを迎え入れる必要がある

それでは、今日の御言葉を通して、まず教えられている第一の原則は、本文ルカの福音書5章3節に見出されます。

「イエスは、そのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。」つまり、**主イエス様がともにいてくださったという事実が、大きな違いをもたらしたのです。**

最初の時はただ自分の今までの経験、知識、情報、力で背一杯でしたが、2回目の時は1回目と違いは、ペテロは自分たちだけで魚を捕りにいったのではありませんでした。ペテロの船に**神の御子イエスキリストと一緒に乗っておられたとのことです。**

イエスキリストによって自身の人生が変わるためには、聖書の第一原則は**「あなたの人生に神様を迎え入れる」**なければなりません。言い換えますと、**みなさんの人生の舟に主イエスを乗っていただくということです。それはすべての始まりです！**

我々の人生にイエスキリストと一緒にいてくださるかどうかということ以上に、人の人生に影響を与えるものは他にありません。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！ペテロはずっと漁師の生活でしたから、**彼の舟は言ってみれば、彼の生計手段そのものでした。**彼が、**自分の舟を使っていたら、それをイエスに差し出したのは**実にとても意味深いことです。**主イエスキリストがペテロの仕事をご自分の働きの中として用いられたのです。**

今年ここまでの人生の歩みを振り返って見ると、神様はみなさんの家庭のなかに、みなさんのご仕事にどうかかわっておられるでしょうか。**自身の心が、家庭が、職場が、働きが神様のために用いていただく準備はできているでしょうか。みなさんの仕事を通して、イエスキリストは人々に仕えることがおできになるでしょうか。**私たちは、世俗的なものと霊的なものとを必要以上に分けてしまいがちです。多くの場合、私たちは信仰の生活と自分の仕事や家庭のことなどを分けて考えてしまっているのではないのでしょうか。

しかし、仕事、家庭、自分の人生の領域から、神様を断ったり、締め出しては、神様はみなさんの仕事を、家庭を、自分を祝福することがおできになりません。**神様は、我々が差し出すものをすべての中で働いておられ、祝福し変えて下さいます。もし、みなさんが人生のすべてを心から差し出し、ゆだねるなら、神様はみなさんの全人生をさらに祝福し変えてくださると信じます。**しかし、部分的にしかささげないなら、祝福も部分的にしか受け取ることができないし、人生の一部分しか変わらないでしょう。いつも職場に着いたら、学校に着いたら、会義の前に、勉強の前に、家族が一日を始める前に、**いつも神様をお招きするため、まず祈り、キリストに全てを委ねて見ませんか。**

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！**みなさんの人生の舟にイエスキリストをお迎えすると、何かが変わります。恐れる心が消え、思いわずらいが減るのです。**ペテロが主イエス様を仕事のパートナーとしてお迎えした時、素晴らしいことがおこりました！**ただ自分の力で魚を捕る時よりもはるかに多くの魚を捕ることができたのを忘れないで下さい！**

サタンは我々にいつも何とかすべてをイエスキリストにゆだねてしまうと、**何か自分の自由がなくなりそうに、何か損を受けるのではないかと、後神様に多く返さなければならぬのではないかなど**を不安と束縛、恐れなどの考えをたえずくれます。今日もこの礼拝の時さえも、ただ、みなさんの心から全てを委ね、差し出さないように、一部分的な—たとえ、日曜日の礼拝の時間だけでも十分じゃないかのように惑わしていることを覚えて下さい。聖霊の充満、聖霊の満ち：特別な神秘的できごとではありません。**自分のすべてを主に差し出すこと、ゆだねることが本当にできているのが私は聖霊に満たされていることになると信じております。**

それに関してパウロはこう告白しています。**カラテヤ人への手紙2章20節**です。「私はキリストとともに十字架につけられまし

た。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えて下さった、神の御子に対する信仰によるのです。」

見逃してはならないのはそこに至る順序、プロセスです。まず、始めに、ペテロは自分の舟をキリストの目的のために差し出しました。次に、イエスキリストはその舟を用いて多くの人々に御国の福音をのべ伝えました。そして、イエス様は御自分の目的のために舟を使われた後に、神様はペテロの必要に応じて下さったのです。

キリストは私たちに、「まず神の国とその義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます(マタイの福音書6章33節)」と約束しておられます。これは、もし自分自身が自分の人生をキリストにゆだねて、あらゆる分野においてキリストを第一とするなら、神様はそのすべてを変え、祝福して下さる、という意味なのです。これが、あなたに対する神様の約束なのです。

<我らの人生を逆転させ変えれる聖書の三原則>

②神様のご計画に歩調をあわせ動く必要がある(自分に下さる約束の御言葉+即刻従う)

聖書の第二原則は、ルカの福音書5章4節に見出されます。「話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」ペテロは二度目に魚(りょう)に出た時、彼はイエスキリストのお言葉に迷わず、壽著せずに、すぐ従って漕ぎ出し、網を下ろしました！自分に語って下さるイエスキリストのお言葉にペテロはすぐ反応し、従ったのが状況が変わる神の力を体験することが出来ました。成功の第二原則は、私たちは、自分の人生にイエスキリストをお迎えするだけではなく、みなさんに向かう神様のご計画に歩調(ほちょう)をあわせすぐ従わなければなりません。イエス様はペテロたちに、いつ、どこで、どのように魚を捕りにいけば良いかを教えられました。神様は我らにも今もみなさんに、我らに向かった約束のお言葉を与えて下さっていることをご存じですか。聖書！がそのものです。

聖書はみなさんに今日もどう働き、どう生きるべきなのか、どう選択すればよいのか、いつ、どのようにすればよいのか具体的に教えて下さっているため、神の御言葉にまず、傾けなければ、なりません！聖書を黙想しながら、日々自身に向かむ神のメッセージを聞いて下さらなければ、どう行ふべきか分からず、自分の思いのまま、自分勝手な歩みになるしかないと覚えましょう。聖書は十分に我らの人生を変えることが出来る神の力と知恵の源であることを覚えましょう！

家を変えたら、ぜひ聖書を読んで、神様が自分に与えておられる具体的な約束を見つけることです。

その後、その約束に基づいて祈るのです。神様がみなさんの人生に働いてくださることを期待していきことなのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！イエスキリストのお言葉を聞いたペテロはどうしましたか。

ペテロはすぐ従って見ました！でも、実はペテロにとって従うことは決して容易いことではありませんでした。彼は十分こう反論することが出来るでしょう。

「イエス様、ちょっと待って下さい。本気ですか。あなたは私がだれだか御存じないのですか。私はね、このまわりでは魚の第一人者として知られているのです。失礼ですが、魚を捕ることに対してはあなた様より、私がプロなのです。こんな私に魚を捕る仕方を教えて下さるとは、どういうおつもりですか。」とも聞き返しませんでした。質問したり、ためらったりすることもありませんでした。彼はそう言わなかったのです。

そして、ペテロはまた、自分の感情に流されませんでした。一晩中働いていたのですから、きっと疲れ切っていたに違いありませんでしたが、ペテロは口答え一つせずに、ただイエスキリストの指示に従いました。彼は、今まで自分の思いのまま、自身の計画通り働きながら生きて来た人生でした。もし、いくら神の素晴らしい約束の御言葉が語られても従わなければ、ペテロの人生は変わらなかったはずでしょう。しかし、これからイエスキリストのご計画に合わせ、お言葉通りに従って見ることに決めました！それはペテロの人生の大きな変化を直接体験することが出来ました。

イエスキリストが言われた通りまた網をおろした結果、本文6節を見ると、「そして、そのとおりにすると、おびたしい数の魚が入り、網が破れそうになった。」結果を体験することになりました。自分の必要以上、溢れるほど満たされる素晴らしいキリストの御業を实际体験することができたわけでありませぬ。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！みなさんの人生に対する神様のご計画は良いものであり、みなさんのため

になる計画です。これを信じていますか。今もイエスキリストは私たちにこう言われておられると信じます。

「きみの人生の舟にも私を乗せてごらん下さい。あなたの行くところどこにでも、それが会社であろうと、家庭であろうと、結婚生活であろうと、学校であろうと、どこであろうと私をそこに招き入れて見なさい。きみの人生を私に任せ、私の計画に合わせてすぐ従って見なさい!」と今も我らに語っておられます。

<我らの人生を逆転させ変えれる聖書の三原則>

③自分一人ではなく、共に支え合い、協力する(分かち合い共にする祝福)必要がある

成功の第3原則は、ルカの福音書5章6-7節に見出されます。

「6そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。7そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっぱい引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。9節にも、「彼も、一緒にいた者たちもみな、自分たちが捕った魚のことで驚いたのであった。」

イエスキリストの御言葉にすぐ従った彼らは網がつぶれるほどの大漁に恵まれました。神様は彼らに、自分たちの手に負えないほどの祝福を与えてくださいました。7節を見ると、あまりのおびただしい数の魚が入り、網が破れそうになったため、他の舟にも助けられ、魚を分け上げなければならないほどだったと記されています。みなさん。こんな人生を送って見たいと思いませんか。ここに大切なポイントがあります。すなわち、神様は我々の人生を祝福するだけではなく、他の人と分かち合わなければ自分の舟が沈んでしまうほどの祝福をあたえようとしておられるということです!

神様は今もみなさんを祝福するだけではなく、みなさんを通して他の人々をも祝福したいと願っておられるのです。

結局このイエスキリストによる経験によって、ペテロと彼の兄弟たちに人生の大きな転機となりました。今まで、自分のお腹のため、自分のみ満足するため一生懸命に頑張っていた人たちがその後から、人を助け、人を愛す、人を救うために尊く用いられた人生、人間をとる漁師として用いられることになりました! イエスキリストは、我らの人生を変え、祝福され、自分、自身の家庭だけで止まらず、共に分かち合い、共に支え合い、共に助け合い協力しながら、神の祝福がさらに広がることを望んでおられます!そして、我らの人生を変え、さらに価値ある人生(人間を捕る漁師)として、他の人をも愛し、助け、神の祝福と救いに導かれるように導く者として用いようとしておられます。本文10節をご覧ください。

「シモンの仲間の、ゼバダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」」

<キリストとともにもう一度やって見ましょう>

今日の御言葉が、我々の人生にどう当てはめられることができるでしょうか。もしかすると、今我々の中の心境は、キリストが来られる前のペテロのようであるかもしれません。「一晩中一生懸命に頑張って働いたのに何も捕れずに終わってしまった…」心身ともに疲れ果ててしまっている、無気力でやる気がない、もう自分の力と努力に限界を感じている、家族の生計のため働くことに重すぎているなど。」自分の結婚生活、仕事、その他の個人的な問題を振り返る時、何一つ改善されていないように思われるかも知れません。そして、「これ以上努力したところで、いったい何の意味があるだろう。このまま続けるべきなのか、続けてても本当に良いのか。むなしいだけじゃないか。」という思いで、人生の中まかされていることに疲れ諦めたい態度を取りたくなる時が来るかも知れません。

しかし、この時、ペテロはそのままあきらめず、自分に来られたイエスキリストに自分の船を差し出したように、今度は、みなさんの船に主イエスキリストを乗せて見ませんか。みなさんに向かう主の約束の御言葉に傾け、従って見ましょう。神様はこれから自分一人だけではなく、みなさんが共に支え合い、助け合い、分かち合ってみなさんを通して、みなさんの周りに関わるすべての人々を祝福しようとしておられます。主イエスキリストが必ず差し出すみなさんの人生をも違う結果をもたらして下さると信じます!今週から始まるアドベント4週間と残り今年、改めて主を招き入れ全ての人生の歩みの中で主とともに歩めるクリスチャンプレイズ全信仰の家族となり、キリストによってペテロが経験されたように失敗を立て直し、逆転させ、さらに満たされ祝福されていく全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように、みなさんのこれからのすべての手の業の上にも主が共におられ、さらに豊かな人生に変えて下さいますようにお祈り申し上げます。アーメン。